

シラバス

(神戸大学・東京六甲クラブ・ミニ MBA 塾・第 7 期)

開講期間	2019年8月～2020年9月（月1回×3時間×14回）
担当講師	大住敏之（但し、「生産管理」を担当する講師は別途指名）
受講対象	神戸大学の理工系学部卒業生を主な対象にしているが、文系学部 & 他大学の卒業生も大いに歓迎（受講生の多様性を重視）
講義 の 概 要 & 特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・経営の実践体系理論（MBA プログラムのコア科目に相当）を論じる。 ・その背景にある考え方： <ul style="list-style-type: none"> i) 現代の我々は「組織」という世界に住んでいる。あらゆる「組織」の運営には経済学・経営学的思考を必要としている。 ii) 経済学・経営学的思考は、主として企業を研究対象としているが、実はあらゆる組織（役所・学校・病院・軍隊・美術館・自治会・NPO 等）のオペレーションに有効。 iii) 実社会に出て 10 年もすると、エンジニアであっても、マネジャー的業務に直面、MBA プログラムの知見が必要になる。（特に会計、ファイナンス、マーケティング、組織行動論） iv) アメリカの有力ビジネス・スクールでは、学部時代に理工系を専攻した者が半数以上を占めている。卒業後、Engineering + MBA というバックグラウンドを生かし、経営の第一線で実績を挙げている。（日本企業は未だ生産現場一流、本社三流から脱却できていない） v) 日本以外の先進諸国・新興諸国では幹部候補に対し、世界標準の洗練されたテキストを使い実に効率的に経済・経営教育を行っている。偏狭な攘夷思想に捉われず、オーセンティックかつグローバル・スタンダードの理論体系をベースに講義を展開。 vi) 経営の実践体系理論は、リベラル・アーツや純粋理論ではない。また、一般的な経営書によくある精神論・根性論・経験論もしくは理論抜きハウツー・モノとは一線を画すもの。現実の経営を理論化・体系化したものなので汎用性と応用性に優れる。 vii) 経済学・経営学の全領域を扱う講義（経営学総論 or MOT）では、専門に特化した教員が入れ替わり立ち替わり登壇し、前後の脈絡に関係無く自分の専門分野を講じるのが通例だが、（生産管理を除き）一人で担当するメリットを生かして俯瞰的・横断的視点に立ちながら相互関連性、相互位置関係、全体像を強調する。

	viii) 経済学・会計・ファイナンス理論を通奏低音とし、ビジネスの実践現場での有効性と耐久性に照らしながら、実践経営の全構成分野を論じるところが“Blue ocean”.
講義の モットー	<ul style="list-style-type: none"> ・ “良い理論ほど実践的なものはない” (There is nothing so useful as a good theory. ; クルト・レビン) ・ 良い理論は、自明でなく意外性があり、学ぶことが楽しい。常識と直感に基づく判断の過ちを正してくれる効能を有する。
受講資格・ 予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし、政治・経済・経営・社会に対する知的好奇心のみ。
講義 の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> i) 経済学・経営学のベースになっている基本的考え方、実践に有用な代表的理論・概念を体系的に理解。現実問題への適用展開を体得。 ii) 体系的に MBA コア科目のエッセンスを学ぶことにより、量的・質的に最強の学習方法である「自学自習自省能力」を身につける。 iii) 現実の問題解決を論理思考で時間的・労力的に効率よく正しく行う能力。 iv) 現実の諸課題が、大学のカリキュラム別に分類されて存在しているわけではないし、組織図の業務職掌を尊重して向かってくるわけでもない。マネジメントの全体観・鳥瞰図(海図; Chart)を持つことで、組織を預かる人間にとって致命傷になる盲点(知識・経験・情報のない課題、即ち予期せぬ岩礁)を極小化するのが狙い。 v) どのような事態でも、自信を持って迅速に正しい方向に第一歩を踏み出し、組織を導くことができる。 vi) 情報洪水の中で流されないための思考軸・プリンシプル・インテグリティを身につけるには正統理論(Good Theory)の理解とこれに立脚した、しっかりとした思考訓練(Discipline of good thinking)が不可欠。
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回 40~60 ページの独自テキストを事前に配布 (MBA コア科目を網羅し理論的整合性の取れた市販の教科書は、残念ながら存在しない) ・ 配布テキストの事前熟読 (リーディング・アサイメントー I) ・ 添付資料②の書籍を読みこむ (リーディング・アサイメントー II) ・ テキストをプロジェクターでスクリーンに映しながら、少人数ゼミナール形式で説明 (情報量が少なく正確に伝わらないので、パワーポイントは使用せず)

<p>講義方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問・意見は随時 OK, 自由闊達な双方向講義を目指す. ・受講生が直面する現実の業務問題を取り上げその解決方法を議論. ・カレンツ・イベント・レポートの提出; 講義で印象に残った理論, 心に響いた箇所, 取り上げたテーマに関連する記事を新聞・雑誌から選びその要約と自身の見解をまとめ当該月末に提出. (受講生全員で共有し意見交換, 指名により適宜クラスでプレゼンテーションも) ・クローズド・グループウェア活用により, クラス・メンバーをネットでコネクティッド, 教室外でも常時, 質問・意見交換を行う. ・講義時間は, 六甲クラブ・スタッフのご厚意に甘えて, 午後7時から10時まで, 夕食と Drink 付き. (原則中旬の水曜日) ・会社で中核業務を担っておられる皆さんの苛酷なハード・スケジュールに鑑み, 希望者があれば翌週水曜日に補講を実施. ・既にお気付きのように, 1) 読み (Reading Assignment), 2) 聴き (Lecture), 3) 話し (Discussion), 4) 書き (Report Submission), 5) 飲食 (Meal & Drink) で五感をフルに使えば, 無理に暗記しなくても若い皆さんの頭脳には MBA コア科目がシステムティックに蓄積される. ・皆さんが慣れ親しんだ日本の大学の講義とは異なり世界標準の講義を目指している. 負荷の比率は; 予習 30%, 講義 40%, 復習 30%
<p>講義日程 & 内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (I): -----8月28日(水) <ol style="list-style-type: none"> ① 開講式&自己紹介 (初回のみ補講なし) ② 講義方針・プロトコール ③ ビジネス上の持論 ④ MBA プログラム 2. イントロダクション (II): -----9月18日(水) <ol style="list-style-type: none"> ① 人口動態論 (デモグラフィック・オーナズ問題・タイムマシン経営) ② 世界のマグニチュード理解 ③ 論理思考による問題解決手法 3. ビジネス経済学 (I)-----10月16日(水) <ol style="list-style-type: none"> ① 経済学の基本コンセプト ② 経済モデル ③ 経済システム ④ 経済体制の歴史的展望

4. ビジネス経済学 (Ⅱ)----- 11月13日 (水)

- ① 産業組織論
- ② 生産コストの理論
- ③ その他経営に重要な概念・理論
- ④ 情報の非対称性・ゲーム理論

5. 経営学 (Ⅰ)----- 12月11日 (水)

- ① 経営学とは
- ② 会社組織
- ③ 経営学の系譜

6. 経営学 (Ⅱ)-----1月22日 (水)

- ① 経営戦略論
- ② 組織行動論 (人材マネジメント・リーダーシップ論)

7. 経営学 (Ⅲ) : -----2月12日 (水)

- ① ブルー・オーシャン戦略
- ② 一時的競争優位戦略
- ③ リスク・マネジメント

8. マーケティング論 (Ⅰ) : -----3月11日 (水)

- ① マーケティングの基本コンセプト
- ② マーケティング戦略・戦術

9. マーケティング論 (Ⅱ) : -----4月15日 (水)

- ① サービス・マーケティング
- ② デジタル時代のマーケティング
- ③ ケース (小企業の商品開発事例)

10. 製品開発 & 組織的知識創造 : -----5月13日 (水)

- ① 製品開発の本質
- ② 製品開発とイノベーション
- ③ 製品開発プロセス
- ④ 組織的知識創造論

	<p>11. 会計学 : -----6月17日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 会計の基本コンセプト ② 会計原則・基準 ③ 財務諸表 ④ 財務分析 ⑤ (ケース) 会計構造・プロセスの一体理解 <p>12. ファイナンスの基礎理論 (I) : -----7月15日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ファイナンスの基本コンセプト ② DCFメソッド ③ 投資プロジェクト評価方法 <p>13. ファイナンスの基礎理論 (II) : -----8月19日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① リスクと不確実性 ② 企業価値評価方法 (CAPM, β, WACC, EVA) ③ ファイナンス理論上の留意事項 <p>14. 生産管理 & クロージング : -----9月16日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生産管理 ② MBA コア科目のエッセンス ③ むすびにかえて
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生同志の議論・意見交換における率直度・闊達度を維持するため、「秘密保持誓約書」を提出. ・自治運営のため輪番の月間級長として Household work を担う. ・第1期～第6期生で構成する Alumni 組織 (掬星会) メンバーとの交流. ・フィールド・サーベイを計画 (yet to be materialized) ; <ul style="list-style-type: none"> i) JFE 千葉製鉄所見学 ii) その他首都圏の企業見学 iii) 会社保養所を活用した合宿

(注) シラバスは、受講生の皆さんと先生役の僕との権利・義務を定めた**双務契約**です。
僕は皆さんへの**コミットメントを順守**すべく**最善を尽く**しますので、皆さんの方でも**契約条項履行を最優先**にしてください。